

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆2月の街角景気、基調判断は「持ち直し」維持 4カ月ぶりの上昇

・内閣府が発表した2月の景気ウオッチャー調査(街角景気)は現状判断指数(DI、季節調整値)が前月比1.3ポイント高い48.9だった。4カ月ぶりに上昇した。基調判断は「持ち直している」で据え置いた。2～3カ月後の景気を聞いた先行き判断指数は0.1ポイント低下し50.0だった。現状判断指数を構成する3つの指数全てが上昇した。

◆1月の経常収支、9416億円の黒字に 中国の春節ずれで貿易赤字が縮小

・財務省が発表した1月の国際収支統計(速報)によると、海外とのモノやサービスなどの取引状況を示す経常収支は9416億円の黒字(前年同月は3446億円の赤字)だった。黒字は12カ月連続。中華圏の旧正月・春節のずれなどで輸出から輸入を差し引いた貿易収支の赤字幅が縮小。貿易収支は6004億円の赤字(前年同月は2兆9340億円の赤字)。

◆1月実質賃金1.4%増、13カ月ぶりプラス ガソリン減税でインフレ服

・厚生労働省が発表した1月の毎月勤労統計調査(速報、従業員5人以上)によると、物価変動の影響を除いた実質賃金は前年同月比で1.4%増えた。プラスは13カ月ぶり。ガソリン減税などで物価の伸びが鈍り、賃上げ効果が上回った。基本給にあたる所定内給与は26万9198円で3.0%増加し、33年3カ月ぶりの高い伸びとなった。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆家電量販5社、2月全社増収 冷え込みで暖房需要のエアコン好調

・ヤマダホールディングス(HD)など家電量販5社の2月の売上高(全店ベース)が出揃う。全社が前年同月に比べて増収。冷え込む日もあり、暖房需要としてエアコンの販売が伸びた。東京都の省エネ家電の補助制度も購買を下支え。エアコンが18.9%増と好調でパソコン(7.8%減)や冷蔵庫(1.4%減)の落ち込みを補った。

◆テスラ、家庭向け新蓄電池を26年国内投入 出力2倍で仮想発電所拡大

・米テスラは2026年内に家庭用蓄電池の新機種を国内で販売する。太陽光で発電した電気をためて夜に使うなどして電力の需給を調整。従来機種と比べて出力を2倍に高め、少ない台数でも需給を調整しやすくした。同社は大量の蓄電池を束ねて必要な時に電気を供給する仮想発電所(VPP)事業に注力、新機種の「パワーウォール3」を提供。

◆グリーン電力市場、2040年度に6兆円規模へ

・富士経済は国内の電力小売市場やグリーン電力市場などの最新動向を調査した結果を「電力・ガス／グリーンエネルギー市場・企業戦略総調査2026」(A4判・214ページ)にまとめた。この中で、電力小売市場における「グリーン電力」の比率は2025年度の6.6%から2040年には27.7%にまで拡大すると予測。市場規模は6兆180億円に達する見通し。

《 注目商品 》

■パナソニック、「外でもドアホン」をフルモデルチェンジ

・AI機能搭載モニター付テレビドアホンをフルモデルチェンジ。事前登録した顔情報に応じてAIが顔を認証し自動メッセージによる来訪対応が可能。未登録者には自動録画と用件確認を行う。「うろつき検知」機能は、エリア内に約30秒間とどまった人物をAIが自動録画。



■YKK AP、リフォーム用内窓にプロジェクト窓追加

・リフォーム用樹脂製内窓の引違い窓に加え、内開き窓・開き窓テラス・FIX窓を新たに追加。内開き窓・開き窓テラスの枠見込み寸法を50mmにスリム化、室内側への枠持ち出し納まりにより、取り付け寸法は最小39mm(FIX窓は45mm)を実現。



■ケルヒャー、リチウムイオンバッテリー採用の業務用手押し式床洗浄機

・ケルヒャー ジャパンは、ローラーブラシによる「除塵・洗浄」と、「二次汚染防止」を実現し、従来から好評のリチウムイオンバッテリーの採用で管理コストを大幅に低減する業務用手押し式床洗浄機「BR 45/22 C Bp Li」を3月30日に発売。

